

コード	403020106
記入日	H21.6.8

事務事業途中評価表

課コード	108
課名	まちづくり推進課
課長名	竹中次郎
担当者	坂下幸喜

作成年度	平成 21 年度
------	----------

評価対象事業名称	花火・祭り等イベント関係補助金
----------	-----------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ～ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	4	政策名称	自立する産業の育成、雇用の確保	款コード	7
施策コード	403	施策名称	商工業の振興	項コード	1
基本事業コード	40302	基本事業名称	特産品の開発	目コード	2
事務事業コード	4030201	事務事業名称	特産品開発支援事業	細目コード	139
関連計画			法令・条例規則等	新上五島町商工観光振興奨励事業費補助金交付要綱	

計画 (PLAN) ※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標					
(対象1) 住民		(対象指標1) 23,719人(20.4.1)					
(対象2)		(対象指標2)					
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
*****	補助金交付団体 7団体 ・サマーフェスティバルinわかまつ ・奈良尾夜市と花火 ・ざあーまによか夏上五島 ・どてらい市 ・ありかわ縁日 ・ざあーまよまつり ・奈良尾ふるさとみじよかつり	***	***	***	補助金交付団体数／	***	
		補助金交付件数	7件	100%	補助金交付予定団体	平成20年度	
		①	(達成率分析) 計画していたイベント実施団体全てに補助金を交付済み。				
		②	(達成率分析)				
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
各地区の実行委員会が開催するイベントに助成を行うことにより、イベント内容の充実を図り、地域の賑わいを創出し活性化を図りたい。(目標参加数 マリンin有川4500人 奈良尾夜市と花火3000人 サマーフェスティバルinわかまつ5000人 ざあーまによか夏上五島2500人 ざあーまよまつり3200人 どてらい市1200人 奈良尾みじよかつり2000人)		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
		***	***	***	集客数÷目標参加者	*****	
		集客数	21,400人	100%	数	平成20年度	
		①	(達成率分析) ブラッツ浦浜の花火の取りやめなどあったが、集客数は目標どおり達成し賑わいのあるイベントの実施ができた。				
		*****	*****	*****			
		②	(達成率分析)				

実施 (DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成19年度以前	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 件	14	14	7	7	7					
	②										
成果指標	① 人	38,200	38,200	16,800	21,400	21,400					
	②										
総事業費C (A+B)		千円	23,797	24,018	18,432	5,365	5,586				
直接事業費 A		千円	20,997	21,218	16,332	4,665	4,886				
人件費 B		千円	2,800	2,800	2,100	700	700				
内訳	従事職員数	人	0.4	0.4	0.3	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源		千円	23,797	24,018	18,432	5,365	5,586				

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	地区の活性化策としてバックアップしていく必要がある
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	イベントの賑わいの場合は町民の関心度が高く、参加人数も多いことから必要である。
	事業の対象・目的は適切ですか。	● 適切 ● 不適切	理由	補助金の趣旨どおり適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	理由	イベントの開催は地区の活性化を生んでいる。
	成果を向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	イベントの内容をより充実して集客数を増やしていくことが重要である。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	● ある ● ない	理由	町の補助金無しではイベントの規模が小さくなり参加者も少なくなる。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ● できない	理由	将来的には1つの大きなイベントの実施に向けて方向性を現在模索中である。現段階での統合は困難である。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	できる ● できない	理由	500万円の範囲で振り分けて行っている。現段階では無理である。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ● できない	理由	最小の人員で行っており削減できない。
	受益者負担は適正ですか。	● はい ● いいえ	理由	条例に沿っており、適正である。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ計画を見直す必要は無い。
		有効性	イベントの内容の充実を図っていく必要がある。
		効率性	今後の経過を考慮して見直しを図りたい。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおりに
		有効性	各団体の自主性を尊重し、地域の賑わい、活性化に向けた取組を支援し、住民協働のまちづくりを図っていくこと。
		効率性	補助金の執行については、団体の内容を審査のうえ適正に行うこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続				類似事業と整理統合
		●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。